

た。市議員に原水爆禁止決議について申込んだところ、心よく引受けて下さった。

“宣伝を強めよう”

“労働助けあいが必要だ”

川崎市商工会 役員会で水爆禁止について話しあつた。みんな禁止をのぞむが切実な問題は税金、売上げの減少で明日の生活をどうするかが先決問題だという意見が多いのです。横浜で私のとり立て先の店、三店のうち二店がつぶれるところへ来ている。しかし三崎へ行くと業者は入港船が放射能でだめ、どうしても水爆禁止を要求します。平和の問題を、これをやるのが商人の収入を補償するということを労働者の人たちが先頭に立つて宣伝してほしい。これを機会に互いに連絡し「助けあい」をやつてゆきたい。尼ヶ崎の労働助け合い運動は、はじめ労働者がストの宣伝に行つたら困るといわれ話し合い、商人が援助した。今度は商人が差押えられたとき、労働者が助けたことから出発したのです。

“禁止させなければなりません”

“老婦人の声に満場感激”

横須賀母の会（老婦人） 私たちはキリストの愛の運動をしています。宗教に国境がないと同様、平和にも国境はありません。最近ある母から子供がヘロインをのんでいるということについて相談を受けました。

私はガクゼンとしました。子供を救うのは私たち母の愛で解決できます。しかし平和……原水爆は二人の愛では解決出来ません。もっと大きな問題ですと話しが一致しました。私たちは母の会の会報を出し原水爆兵器の禁止ということを話しあつています。主婦の生活は放射能が野菜にまであるという危険状態から何をたべたらよいか、そしてこれを誰がやつているのかということをお話します。……（中略）平和はどこの国の専売特許ではないのです。私は原水爆兵器の禁止を声大にしてさげびます。やめさせなければなりません。（拍手）

逗子平和懇談会（老婦人） 私は海の生物研究で油つばへ行きました。そのとき三崎で原爆マクロを知りました。エナージ（エネルギー）をつくつた科学を私は尊敬しますが、それが目かくしされた馬のように一路爆破へと行くことに不満です。バイブルは科学以前の総合文書でしたが、科学を知り自然の動き、天体の運行、海流をつかんだ人類、そのアメリカがなぜ考えないのだろうか。

第2章 社会運動

アメリカは人種的差別撤廃に立上つたリンカーンを生んだ国です。それがいま自分の国で実験できないことを地域の原住民が知っているながら、モルモットにすることを神が許すでしょうか。(拍手)クリスチヤンはアメリカの良心をはつきりと目覚めさせましょう。原子力のエネルギーが大きいように私たちの精神のエネルギーをもつて老骨をさげたいと思つていきます。(拍手)

亙子平和懇談会 私達のこんだん会がやらねばならぬことは会員外の人達の手足となつて動くことだと思ひます。講演会をやり、原水爆の恐ろしさを医学的な立場から、又社会的な立場から大学の先生などに話してもらい、署名運動を行つて一部の人達だけでなく全部の人達と一緒にやらねば駄目です!

大船労組 組織を通じてやつていつて立おくれを取戻します。

「職場の要求は平和です」

全員が署名運動へ

昭電川崎

昭電川崎 うちでは組合機関の決定で組合員一人九名の署名が出来るようになりました。それは一昨年のスト以来、職場は圧迫され、日中貿易の問題「中国へ疏安を」と話しても赤だと云われ苦しい

状態だつたのです。それがいまのようになつたのはどうしてかと云うと、いろ／＼活動している青年が弾圧にも屈せず斗つたから(ママ)と思うが、あのメーデーのとき職場でブラカードをつくれと組合ですゝめたことにありました。それはブラカードはほとんど全部が平和の問題をとり上げていたのです。職場にはいま首切り、賃銀問題があるのにと執行部はおどろいたのです。平和の問題がこんなに職場で要求されることに気が付きました。それで執行部に平和の問題を提案し、署名を決定したのです。九月のブタベストでひらく化学労働者大会へも人を出す方針です。本当に平和のくるまでわれ／＼は積極的に斗います。

真剣な婦人、子供たち

街頭署名で教えられた

神奈川平和の会 五月例会で横浜の五ヶ所で一万枚を用意して原水爆禁止署名をやることにしました。神奈川区六角橋町で署名をやりましたが、平和運動は町や地域との接触がなくては絶対駄目だと云うことが判りました。署名は約二時間で二五〇人、カンパ約五〇〇円をいただきました。署名は婦人の方が特に熱心で、追つかけて来てカンパを渡す人さえありました。子供の平和への願い

も推しはかれないものをもっていることが判りました。と云うのは、小学校五、六年位の女の子供達がやつて来て、「おじさん原爆が落つこちるの？」と尋ねるのです。「今度は落してもらわないためにいまやつているんだよ」と答えたところ真剣に続けて尋ねてきたわけです。「集めてそれをどうするの？」と署名用紙をさして言うのです。五大国政府に送るんだと云つたところ「でもカズが足りないでしょう」と云つてくるのです。

この時の子供達の顔つていつたらほんとうにまじめな顔つきなのです。「日本中、世界中の人がするから」と云つても、ふに落ちない顔をしていましたが、「じゃあ私達もやりましょう」と云つて自ら署名をしたのです。子供達の平和への大きな関心と希望に頭の下る思いでした。こんな罪もない子供たちが戦争のために「学徒動員」や人殺しのために働かせられるのは本当にさせてはなりません。大きな平和の力で希望を実現しようではありませんか。

警察の干渉許さず(県会)

国鉄労組は駅前署名に協力す

港湾労組 太平洋岸の入港船舶はみな放射能船だ。また荷物にもあつたらさらに問題だ。国民生活の全般におよんでくると考えられ

る。これはピキニで実験したというのでなく、アジアに対してアメリカの命令に従えという脅迫行為だ。このことをジュネーブ会議に反映させる必要がある。ストックホルムにおける平和集会にも代表を送るべきだ。旅券をカクトクしよう。

◇議長こゝで原水爆禁止の運動方針をはかり、満場の拍手で可決。具体的な運動について……

内野(共) 運動をすゝめてゆくには禁止の署名を無数に集めることが大切だと思います。水爆は四〇発爆発すれば放射能で全人類が滅亡するといわれている。これは人道的な問題です。だからこそ原水爆の禁止を強力に進めなければなりません。これが禁止されればアメリカの戦争政策はなくなりません。それはアメリカのすべての政策が原水爆兵器を中心にくまれているからです。われわれはいまこそ署名をウンと集め、二八〇万県民から最低二〇〇万の署名をとり、まづ日本大会までに二〇万を目標にはじめましょう。そのためには県会も先頭に立つて署名運動をやつていたぶきたい。そして市会も、町会も運動をおこし、誰もが気がねせず、大びらにやれるようにしよう。(拍手)

中国帰国者(五十才位) 国会に警察が「署名平和運動に干渉すること」をやめるように提案したい。弾圧する人達も放射能が入れ

ば死んでしまうのだからこれは可決されるのが当然だし、させなければならぬ。

横須賀基地労働者 山の上の井戸に一千カウントもあつた。水もめぬ。またマグロのキレハシを買つていた近所の貧しい小母さんもこれが買えなくなつた。いまゝで署名に行つても夫が富士モーターに勤めているからよそうと断つた主婦も、ビキニ以来署名するようになった。また職場では今まで何も話せない空気がだつたが、いまは原水爆問題でいろ／＼話しあつている。原爆の禁止には反対だといつてた人も禁止に署名するようになった。

議長（添田） さき程中小業者から目先の生活問題といふことが出されたが、戦争といふ本質的なものが中小業者を今日のように追いつめている。このいまのありかたを解決することだと思ふ。県会は今県民の名において原水爆の国際管理を決議しました。署名について警察の干渉があつたとしたら県会は断固闘います。（われらのような拍手）

国鉄 国鉄も駅前でみんなが署名するときに必ず出来るように協力します。組合へ連絡して下さい。（大拍手）

国鉄 いま原水爆反対について議論の余地がない。外国での活発な具体的運動を聞くにつけても、もつとわれ／＼は統一した力とし

て神奈川大会を平和運動の結集体にしてゆくことが必要と思ふ。

◇以上からこの会の参加者全員が準備委員になり、全地域に平和運動のセンターをつくり、県会に中央センターをおくように運動を高めてゆく。署名の数を表わす平和塔をつくろうと話しい、この動きの結集の上に県の平和集会をもつことを決定。

〔注〕 世界平和大集會神奈川県準備會「神奈川県平和大懇談會記録」（一九五四年五月二十四日）より抜粋。

(二)

関東平和懇談会発足

平和運動の発展にともない全国各地方別の平和の連結が緊密になつて来ているが関東地方でも西園寺公一氏、淡徳三郎氏（東京）秋元正氏（茨城）猪野千鶴（栃木）山田確造氏（千葉）添田良信氏（神奈川）志村寛氏（山梨）中村英順氏（群馬）等の呼びかけて五月廿五日参議院会館で全関東より各界の有力者四十四名が集り、それぞれの立場からの意見の交換が行われた。

今後は関東平和懇談会として発足すること、各県の情報の交換、運動の援助、講演会その他集會への協力等が決定された。尚神奈川県からは次の方々が加入している。

岩田義一（会社重役）高畑荀（会社重役）添田良信（県会議員）

菊地ミツ(逗子平懇副会長) 広田重道(日本子供を守る会) 内野竹千代(共産党) 古見松雄(国鉄横浜副支部長) 宮島肇(横浜国大教授) 飛鳥田一雄(国会議員) 竹本宗定(牧師) 伊藤博(高教組合長) 小牧近江(仏文学者) 渡辺輝一(横浜国大経済学部長) 神奈川県地方労働組合評議会青婦人協議会

原水爆禁止署名の集計

原水爆禁止署名の集計をはじめました。個人、団体をとわず署名数をどんぐりとどけて下さい。又この署名運動をするとき必ずカンパ活動をあわせてお願いします。

署名とカンパの送先 横浜市神奈川区栄町二の一八 地評会館内

世界平和大集会神奈川県準備会

原水爆禁止署名数

団体名	票
電通その他四団体	4,015
鎌倉自労	6,650
金沢	1,236
直井	633
直野	1,423
直塚	100
小田原	1,170
相模	1,284
厚木	526
渋谷	110
津久	200
津須	2,902
横須	1,300
三崎	600
横浜	9,052
鶴造	2,000
海上統一委員会	657
民主青年団	4,354
(計)	(38,212)
直備労組よりカンパ	768円

右の集計は六月三日現在知りえたものだけです。従つて実際はもつ

と大きな数字となつていふと思ひます。もれているところはすぐお知らせ下さい。

各地の動き

横須賀

▽ 水爆被害実情報告会開く

五月十日午後一時より横須賀魚市場にて魚市場が主催。商工会議所、工業クラブ、婦人会、日赤、市教組、日本キリスト教会、キリスト教平和の会、地区労その他十数団体が後援し開かれた。講師は武部啓博士(横須賀学院長)、林信雄博士(市立病院院長)、

赤路代議士(衆院水産委員)でした。

▽ 原爆問題懇談会ひらく

宗教会代表、文化人代表、地区労代表などの幹旋により六月三日午後六時三十分から市立図書館にて原爆問題懇談会が開かれたが関東平和懇談会から西園寺公一氏が講師として出席、約五〇名が集つた。

▽ インドの仏教徒を囲む平和集会——地区労の提唱で——

六月七日午後六時から勤労会館にて世界平和者会議の出席インド僧侶を囲む平和集会が地区労の提唱で行れる。横須賀での始めて

の試みでありその成果が期待されている。
逗子

当地での「国際緊張緩和のための集り」の発起人は六月二日現在各階層から三十五名になり、第一回発起人の集りを六月六日午後七時より行う。発起人ニュース第一号を五月二十日に発行。

又原爆禁止運動の世話人はいまのところ七名、各世話人が更に各方面に呼びかけ拡大中です。

尚これら運動の中で六月中旬を目標に「市民平和大会」を行う様努力している。

横浜

▽ 六月三日午後三時より日中貿易促進神奈川県議員連盟主催により野毛山の県会議員クラブで日中貿易のコンダン会が開かれた。当日は県議連理事長添田良信氏をはじめ各層の人々が廿八名参集、セイロンの仏教徒、雑誌ナワローカ編集長サラナンカツラ氏等四師を囲み「国際経済の自由な交流と平和問題」について懇談した。

サラナンカツラ師は「セイロン政府は日本の政府と同様セイロンの共産化をおそれているが、ゴムを米国に買ったかれ、ゴム園は閉鎖の危機にひんし、食糧は一月分の余裕もない状態に陥つた

なかで遂に中国とゴムと米のバーター五ヶ年契約を政府が協定することにたつた。中国ではセイロン代表に対しすぐ八万トンの米を無償で送ることを約し、しかもこの協定では米は国際価格よりも安く、ゴムは非常によい値段で買ってくれた。

そのためセイロンは四百年の植民地の苦しみからはじめて解放された。国民は更に多くの品目について総合的な貿易を進める様強く望んでいるが政府は米国からの圧力で動かうとしない」と語つた。

▽ 青年婦人平和集会の準備進む

県下の全青年婦人を結集した平和集会をひらかうと云う第三回世話人会は六月一日地評で行われた。

出席者は横ドック、生検、民愛青、女同、日農、富士フィルム、専売秦野、金属、国鉄横浜、県労、石川島タービン、川崎市職、日新運輸、神大、横須賀生協、民青团、わだつみ会、合唱団など二〇名。

各地でどん／＼すすんでいる原爆禁止運動の経験がたくさん出され、また一方「平和への意志をもつてながら職制の圧迫や、村の封建制の中でどうして良いのか悩んでいる人たちまでどうやつて含めていくか」「署名なんかやつても何になると云う人もいる」

などの疑問も出された。決定された事項は

「世界平和集会や県下平和集会の運動と結合していこう」

「当面原爆禁止の署名運動をどしどし／＼拡げよう」

「平和集会のことをまだ知らない所、原爆禁止をまだとり上げてないところにどん／＼よびかけて地域での話し合いをもち、発起人もどん／＼ふやしていこう」

「十二日午後五時より第一回発起人会をもつ」

六 月 の 予 定

日時	内 容
5 PM 6:30	相模原大山郁夫氏歓迎会
10 PM 1:00	川崎全市労働者代表者会議（於トキコ）
16	翠嵐高校全生徒放射能講演会
19 PM 7:00	厚木平和講演会 主催 厚木平懇 講師 畑中氏

〔注〕 世界平和大集会神奈川県準備会「ニュースNo.1」（一九五四年六月五日）より抜粋。

(三)

神奈川県でも

『青年婦人平和大集会』を

実行委結成され、運動活発化

去る五月九・十の両日東京で『平和のための日本青年婦人大集会』が行われ、全国の労働者、農漁村、青年団、文化、宗教団体等あらゆる階層の青年婦人約三千名が集つて「平和を守るためにどうするか」「生活を守るためにどうするか」その他私達が考えていること、或いは各地に於ける活動の状態など熱心な話し合いが行われた。

この集会には神奈川県からも約七十名が参加した。これらの人達は「本当に青年婦人こそ平和の先頭に立たねばならない」「団結さえすれば平和は必ず守れる」と云う確信を持つて来たのです。そして参加者が皆一致して神奈川県でもこういう集りを持つとうと話し合い、参加者が全員世話人となり、広く県下各地、各層の青年婦人に呼びかけ、六月十三日には横浜の社会福祉会館で第一回の発起人会が参加団体約八十の下に持たれました。

そして現在盛り上つて来ている各地区各階層の動きをより大きく拡げると共に、お互いに余り接触のなかつた人達の交流を図り、若人の友情と団結を作り上げるために是非共大集会を成功させねばならないと熱情をこめて決められ、直ちに運動を具体化するために大集会実行委員会が結成されました。

第2章 社会運動

ひろがる平和の声

市会、町会でも禁止決議

私達の日常生活までも直接おびやかした水爆実験以来、これまで絶え間なく根強く続けられて来ている平和を求める運動が、直接一人一人の生活につながるものだと云うことが広く理解され、あらゆる階層の人達の参加によつて盛り上つて来ている。

逗子市では二十七年春に誕生した青年婦人を中心とする逗子平和懇談会を含めて『原水爆禁止促進協議会』が結成され、人種、信条を超えて、文化、青年、婦人、教育、商工農並びに宗教の各団体や個人の人々が共に平和の一点で大きく結びつき、平和を自らの手で得ようと云う運動が押し進められている。

相模原でも『相模原青年婦人平和を守る会』が中心となり、近隣の青年婦人層に働きかけて居り、原水爆禁止の問題を始め青年の未来と幸福にかゝる諸問題、例えば戦争反対、徴兵反対のことが等が討議され、又それらの問題が取り上げられないと不満の声が出される程に運動の成果が表われている。

労組では、横浜市従業員労組が活発な動きを進めており、青年婦人部が中心となり独自で全県各層の青年婦人にアツピールをする事が

決定され、又実行委で決定された分担金或は平和バツチによる資金獲得の問題等でこの運動に積極的に協力している。

宗教界でも平和問題が討議されており、横浜仏教青年会では特に積極的に原水爆禁止の問題を取り上げて運動を始めている。

学生の団体でも平和の問題は各所で取り上げられ、討議され、又実際に署名運動が行われている。横浜市大ではその成果としての署名九千票をこの運動に合流したいと云う申し出でもあり、その他民主々義科学者協会の国大班では、原水爆の実態、被害の実情等を直接目で観てもらいより深く理解してもらおうと各労組団体等と相提携して移動展を行つている。説明は直接自分達で担当し啓蒙に努めている。

この他全県の各労組、文化、教育、宗教、農村、学生等の団体を中心にし、青年婦人の力強い平和の呼び声は大きく拡がっている。

私達青年婦人のこの様な動きの中で去る六月十三日、第一回神奈川県平和大集会が神奈川県平和評議会を中心に横浜で開かれ、県下の各層約八十団体、五百名が参加した。集会は各地に盛り上る運動の報告と熱心な討議のうちに進められ、

- 一 当面の平和運動の統一・目標を原水爆禁止の一点に集約する。
- 二 原水爆禁止をかち取るための運動として県二百万票を目標とし

て署名運動を行う。署名簿は政府並びに五大国を含む国連に届けよ。

三 神奈川県各地の運動を統一してやつてゆくために、神奈川県平和実行委員会をつくる。

その他に決められた。

県外では、栃木県でも青年婦人の問題を一緒に話し合つて行こうと既に『青年婦人平和協議会』が恒久的な機関として結成され、八月十五日を平和記念大集会にしようと、機関紙を発行して啓蒙に努めたり、運動が強力に進められている。

兵庫県では六月二十七日に青年婦人の大集會が、約四十六団体、二千名が集まつて行われている。

この様なあらゆる人達の心からの要求に基いて神奈川県を始め福岡、石川、茨城の各県会、及び横浜、逗子、京都、前橋、銚子、焼津、府中、伊東等二十数市の市会並に三崎を始めとする全国の各町議会等全国の地方自治団体では原水爆の禁止、原子力の国際管理等を決議した。この他禁止を決議する自治体の数は日毎に増している。

〔注〕 平和のための神奈川県青年婦人大集會実行委員会「平和の呼び声 No.1」(一九五四年七月二十日)より抜粋。

(四)

逗子市議会に於ける『原・水爆禁止決議』

決議文

われわれは世界で最初に原子爆弾を体験し、その深刻なる病禍に今日なお呻吟している日本国民として、最初の水爆実験による人類の不幸な被害にたいして心から遺憾に耐えない。

われわれは、原子兵器の惨禍がすでに人類を絶滅する危機に達しようとしている現状を黙視することは出来ない。

こゝに逗子市議会は市民を代表して左の決議をなし、その急速なる実現を関係各国にたいして要望するものである。

一 原子兵器の使用ならびに実験の禁止

一 原子力の嚴重な国際管理とその平和的利用の促進

昭和二十九年六月十四日

逗子市議会

趣意書

本年六月十四日、逗子市議会は「原・水爆の実験、使用の禁止」決議を行つて関係各国に対し逗子市民の心からの願いを訴えました。

ビキニ水爆の被害は日をおつて深刻になりつゝある今日、海によつて生きる逗子市にとつてまことに意義深いことでありました。

われらは、この決議を尚一層効果あらしめるものにし、世界人類の

生命と幸福を守るために、この恐るべき破壊兵器の実験と使用を禁止し、これを完全な国際管理に移し、その偉大なるエネルギーを平和のために使用していただく運動を更にく強く押し進めて行きたいと希うものであります。

平和を願う世界の心ある多数の人達が力を合せばどんなに紛糾した国際間の問題も必ず話し合いで解決出来るようになるものと固く信じて疑はないのであります。

凡ての市民が個々の立場や思想の垣根を乗り越えて只一つの願いのためにその力を結集して下さることを心から祈念するものであります。

昭和二十九年七月二十四日

逗子原・水爆禁止促進協議会

代表 菊地みつ

(参加団体)

- 逗子平和懇談会 天理教湘南逗子分教会 小坪青少年後援会 逗子民主クラブ 市政研究会 仏教会 全駐労働子支部 左派社会党逗子支部 右派社会党逗子支部 共産党逗子細胞 逗葉文化同友会 民戦逗子支部 南台青年有志

(個人参加)

浜野春保氏 (全駐労働子支部書記長) 永田靖氏 (新劇俳優)

殿山泰司氏 (映画俳優) 山内明氏 (新劇俳優) 中泉正徳氏 (東大放射線科主任教授)

牛尾定吉氏 (前市議) 広瀬晋吉氏 (福祉協議会長)

桑原元氏 (太陽教会々長) 菊池兵之助氏 (前市議長)

金子直衛氏 (逗子小学校長) 丸山雅司氏 (逗子PTA会長)

永井要造氏 (元代議士) 石内義孝氏 (大和生命相談役)

井上肇氏 (前市議) 金沢冬三郎氏、小笠原三郎氏 (前公安委員長)

和田高次氏 (魚高) 山本宏氏 (教育長) 座間義雄氏 (旅館)

小林芳蔵氏 (魚芳) 加藤武雄氏 (逗子水泳協会会計理事)

尾崎孝子氏 (歌人)

牛尾長吉氏 (市議會議長) 平井金太郎氏 (副議長) 田中菊治氏・辰巳政之助氏・原山伸雄氏・加藤正氏・田村市太郎氏・平井

繁雄氏・鈴木道雄氏・川瀬市蔵氏・一柳亀蔵氏・高橋寛裕氏・山崎ハツエ氏・熊坂長勝氏・葉山進氏・石黒一郎氏・岩田悦蔵氏・

境儀留氏・相川一勇氏・石井好雄氏・峰松蔵氏・中村キヌ氏・鈴木

木界二氏・角田芳三郎氏・永田光二郎氏・中辻荒吉氏

(五)

〔表紙〕
一九五四年八月五日

神奈川平和評議会ニュース No. 3

発行所 横浜市神奈川区栄町二の一八

神奈川地方労働組合評議会内

神奈川県平和評議会

八月十四日 PM 5:30 平和祭

原水爆禁止運動中心に

神奈川体育館での催し

日本国民が再び銃を取らないと心に誓いあつた八月十五日は近か
づいて来た。日本人は八月十五日を国際平和デーとして世界に呼
びかけ、日本全国津々浦々で平和の集会をひらくということが本
年六月東京で開かれた日本平和集会で満場一致決定されている。
神奈川県においても全国と歩調を合せその準備を進めていたが、
こゝに全県下の原水爆禁止を中心としておきている運動を中軸と
して平和祭が八月十四日神奈川体育館で行われる。

八月四日午后一時より地評に於て実行委員会が地評、高教組、駐留
軍、直備、国鉄、日石、厚木平和友の会等十四団体が参加して行わ
れた。特に地評では大会後の第一回評議会で「全力をあげて平和運
動を発展させる。特に十四日の平和祭は成功させるよう努める」と
が報告される等熱心な話合いが行われた。

プログラムは次の様に決まつたが、催物の内容は、県下の運動が力

強く、広般の人々が参加していることをはつきり示している。

コーラスは国鉄、川鉄、横船の職場コーラスの登場といまゝで数回
県下で集会を行い成功している音楽サークルに協議会が多数出席す
る。

映画は、今度総評で自主製作された「永遠なる平和」の封切で、と
くに地評が努力して公開のはこびになつたもの。

日時 八月十四日 午后五時半

場所 神奈川体育館

第一部

司会者挨拶

来賓挨拶

添田氏婦朝報告

宣言・決議

第二部

朝鮮の歌とおどり

演劇

沖繩舞踊

コーラス

映画「永遠なる平和」

大合唱

解散

なお、平和祭の最終打合せ会を十二日午後一時より地評で行う。

横須賀市平和の会結成

横須賀では魚市場で、五月八日原水爆実験の被害実状報告会から、原水爆禁止の運動をはじめることが決定され、これをきっかけに平和運動が発展した。横須賀市議会は原水爆の禁止を決議し、各国政府にこれを要請した。

平和を願う各階の人々約八十名の発起によつて、横須賀平和の会を結成して、原水爆禁止署名を中心に平和運動を進めようと、七月三十日市民会館でその結成大会を催し、次のような基本方針で幅広い平和運動を展開してゆくことを申合せた。

横須賀平和の会 基本方針

原子兵器の実現により、戦争は人類の滅亡を意味することゝなつた。我々は今や、人類の名に於て平和の永続のために力の限りを尽くさなくてはならない。

我々は、原子兵器の製造、使用、実験の絶対中止、原子力の平和的

利用を要請し、個人及国家相互の憎しみ対立感情をなくし、国際間のもつれはすべて話し合いで解決する原則を樹てる。

右の実を挙げるために我々は、全市民、他団体を中央地方の国際平和運動に協力推進し、党派思想のかたよりをさけ、幅広い平和運動を展開するものである。

添田良信氏の帰朝報告会各所に開かる

ストツクホルムの世界平和大集会に日本代表として出席した、県会議員添田良信氏は新しい世界の平和の動きとソヴェト、イギリス、フランス、東独、西独等の国内情勢について各所で講演し、市民に大きな感銘を与えている。

七月二十四日第一番に、地元茅ヶ崎市弘報委員会の主催で講演をしたのを手初めに、七月二十七日横浜市役所健保会館で朝鮮停戦一周年記念の集いに招かれて、又八月一日には津久井郡鳥屋村で農民の人々と語り合い、質問に応えた。

八月五日には川崎市古市場町の主婦を中心とした集りで、八月六日は寒川町の日本内燃機労働組合で、八月十四日午後一時半から横浜新生活協同組で、同じく午後五時半からは神奈川県体育館の平和祭で講演が予定されている。

尚添田氏が神奈川県のみカンとソヴェトの木材、石炭のパートナーによる輸出入を取りきめて来たところから、これら関係の業者との貿易問題についての動きがあり又スポーツを通しての国際親善のため、サトベツク等のマラソン選手を日本に招待することについての話し合をしてきており、これについてスポーツ団体との交渉等も進められている。

「原水爆禁止を要望する」講演と映画の会

一 演題

「ビキニより帰って」

俊鶴丸調査員

「放射能症について」

横浜国大教授 宮川 正

一 映画

「ひろしま」

神教組提供

一 その他幻燈

一日 時 八月十一日(水) 午後五時

一場 所 横浜医科大講堂

主催 横浜医大□水会

後援 横浜医師会

原水爆禁止署名運動

全国協議会生れる

原水爆禁止の署名運動を全国一本のものにまとめてほしいとの要望にこたえ、有田八郎、植村環、大内兵衛、奥むめお、賀川豊彦、片山哲、北村徳太郎、椎尾辨匡、羽生もと子の九氏が発起人となり原水爆禁止署名運動全国協議会の結成を八月八日午後一時より東京の国鉄労働会館で行うことになった。

青年婦人平和集会

本場に青年婦人こそ平和を守る斗いの先頭に立たねばならないと原水爆禁止署名を街頭で行つたり、平和の鳩、バツチをひろめたりしながら県下各地各層の青婦人は八月六、七日国大工学部講堂で大集会を行う。

名前は「平和のための神奈川県青年婦人大集会」とし発起人団体個人名は百二十を超えている。その中には労働組合の青年部、農村青年団、横浜仏教青年会及び左派県連青年部、民主青年団など県下の全文化団体が参加している。

各地の動き

第2章 社会運動

朝鮮停戦一周年記念神奈川県平和集会 横浜市従会館で
朝鮮停戦一周年を記念して、更に話合により完全な平和を求めよう
との呼びかけで七月廿七日横浜市従会館で地評、国鉄横浜支部、高
教組等廿二団体約七十名が参加して行われた。

当日は公務員インター準備会に出席した市従桜井書記長と世界平和
集会に参加し、ソ同盟その他をみて最近帰国した添田氏の講演と、
見聞記についての質問、懇談が行われた。

なお鶴見公会堂でも二十八日集会が行われたが、四百名近く参加し
た。

県職中心に打合せ会

二十四日県職組合で、県職、三井倉庫、シエル、海上、統一委員
会、映画等で原水爆禁止をどうやるか、ストツクホルムから添田氏
の帰朝報告会を行う。

その為の準備等が取りきめられた。

横浜国大、医大のセツルメント診療所発足

半年に近い準備活動を積みかさねて、八月一日より、清水ヶ丘に国
大と医大とが協力してセツルメントの診療所を開設した。

深い隣人愛と平和をねがう学生諸君や、多数の教授その他の人々の
協力により、治療活動、予防医学的活動、更に文化活動と立体的に
行っている。

原水爆反対講演会

鶴見、正明寺で

七月二十四日鶴見正明寺で原水爆反対講演会が参加者百五十人でひ
られた。水爆の幻燈、東大からの講師五人と飛鳥田氏の国際情勢
の話とで盛会裡に終了した。主催した鶴見文化研究会の人達はそ
ごの会合で海の平和祭と地元の青年団職場の方達にもすすめ全会で
参加を決定した。

「青年の国際的友情と平和の集い」

八月六日七日の全県青年婦人大集會めざして、民青团県委ではこの
準備活動を一層促進するために、七月三〇日より、鶴見公会堂で
「青年の国際的友情と平和の集い」を開いた。参加者三百名。

神奈川区で原水爆禁止協議会

二十九日神奈川区原水爆禁止協議会世話人会では商店街会長や地元
の有力者が集まつて、原水爆が止まる運動を続けよう、発起人をひ

ろげよう、二日に準備会を開き全区の方達が幻燈や講演会を開くことが申合せられた。今迄の発起人は白幡万平氏、吉田セイ氏、山田金次郎氏、西川茂氏、商店街、高教組、日石、各労組等。

秦野で原水爆講演会を行う

七月二十四日七時より秦野小学校で東大助教菅野信宏氏を招いて講演会がひらかれた。主催は秦野地方原水爆禁止運動の会、秦野、南秦野、西秦野、東秦野及び大根村の各社会教育委員会であった。尚、秦野地方原水爆禁止運動の会は、こつくと署名をとりながら四ヶ町の町長及び町会議員及び二村の村長及村会議員を始め有力者六十名と三つの労働組合が参加している。

原水爆禁止署名集計

八月五日現在一五二、六七三票	逗子	鶴見共産党	七八八
内 前回分 八〇、八一〇	平懸		二、八一六
今回分 七二、〇六三	横浜駐軍直備労組一、		九八四
横浜	芝浦工機		四四〇
神大(夜)	高教組(神工高)		八一二
金沢	神奈川化学		八三五
一、四〇七			

平塚地区

平塚地区	四、三七六
神奈川民戦	五、八五八
共産党	四、七七四
県民戦	二、九五〇
藤沢民主クラブ	二五三
同憲法ヨーゴ連盟三、	四八六
藤沢	一七、九五八
つるみ生活を守る会	三二四
カナ川	一六四

南区共産党

南区共産党	五〇八
平和しんぶん	
神奈川支局	四三八
神奈川県民戦	一八、二八〇
藤沢東京ネジ労組二、	五三四
全港湾	五三一
横浜流星インク	二八六
総計	一五二、八七三

全関東 海の平和祭

8月 7日(土) 前夜祭 午后8時より
8日(日) 平和祭

鎌倉中央海水浴場	1プログラム	前夜祭	歌とおどりの会	映画 幻燈の会	演劇
		宝さがし	すもう大会	騎馬戦	
		ヨット競走	遠泳	パン喰い競走	すいかたゝぎ
		平和とろうろ流し			

花 火 海上すいかとり

事務局よりのお知らせ

- 一 原水爆署名の集計をどしどしおくつて下さい。
- 二 ニュースは毎月五日、二十日に発行することになりました。各地の記事をおくつて下さい。
- 三 各地域、団体でこのニュースの必要部数をきめてお知らせ下さい。
- 四 このニュースをより良いものとするために是非御批判を願います。

(広田重道氏蔵)

二六四 逗子原水爆禁止促進協議会ニュース第一号

原水爆はもう御免だ!!

世論の力で原水爆を禁止させよう!!

八月六日!! わが同胞よ、この日を永久に忘れるな。噫々、世にも恐ろしいピカドンの日、広島が人類最初の実験台にされた日、今一度あの悲惨を憎しみを以て憶い起せ!!

更に、更に、吾々は水爆実験の被害者となつた。福竜丸を忘れる

な。まぐろを喰う度、憶い出せ!!

吾々の恐怖と悲しみと憎悪の声を、「原水爆やめろ」の叫び声に結集せろ!!

世界の人々も、アメリカでさえも、「原水爆やめろ」の声をあげている。吾々も、世界中の人々と一緒に叫ぼう。「原水爆は絶対にごめんだ」!!

そして署名を以て世界の世論に訴えよう。被害者である日本人の署名が一等きゝめがあるのだから。

逗子にたかまる原水爆禁止のこえ

神を信じる者も信じぬ者も

たゞ原水爆禁止の一点で

去る六月十四日、市会が原水爆禁止の決議をし、同日、逗子原水爆禁止促進協議会が全市民の要望をになつて誕生しました。

これは、はじめ五月から逗子平和懇談会が原水爆禁止署名運動の世話人をつのり、中泉正徳・永田靖・牛尾定吉・浜野春保氏ら九名の世話人が市会、各団体個人に「たゞ人間として生きるため神を信じる者も信じないものもあらゆる思想信条をのりこえて、全市民が原水爆禁止と云う一点で集ろう」と積極的に呼びかけたのです。

―申し合せ事項―

- 一 会代表として菊地ミツ(平懇副会長)を選出する。
- 一 参加団体から一、二の代表が出て事務局を構成する。事務局長は関谷亀之助(民主クラブ)。
- 一 会計は神尾シズコ・横山シズコさん(天理教)。
- 一 連絡事務所は山ノ根二〇、菊地ミツ方とする。
- 一 個人参加の人は世話人となる。
- 一 各参加団体個人はお互に統一協力して原水爆禁止促進協議会としての運動を積極的に行う。但し、独自の運動は拘束されない。
- 一 各参加団体、個人はその運動として自主的に署名運動を行う。
- 一 街頭署名運動を行う。

六月十八日

- 一、三三三票
- 一、一〇〇円(カンパ)

六月十九日

- 一、四六七票
- 一、一五〇円

七月廿四日

- 一、六七一票
- 一、二〇八円

八月 二日

- 一、二七八票
- 一、六七三円

八月 六日

一 署名は八月六日に発足し、原水爆禁止署名運動会と協議会に送る。

一 八月十四日(土)映画と講演の夕を開催する。

予算

映画プリント	五 千 円
技師映写機等	三 千 五 百 円
宣伝雑費	五 千 円
計	一 万 五 千

予算の提出

A 市会教育委等に働きかける。

B 各参加団体は充分の負担金を出し合う。

全市民の良心で

原水爆を禁止させましょう

市議長 牛尾長吉

太平洋戦争前でさえ、各国は軍事協定を結んで毒ガスの使用を禁止していた。その何千倍も力のある原水爆弾を禁止させるのは当然です。平時、戦時を問わず原水爆を禁止すべきです。

市議 川瀬市蔵

科学が発達して人類に生きる楽しみを与えるならばよいが、度をこして人類を殺す様になつたらたまりません。水爆の実験は人類を滅亡させ、地球をなくすかも知れません。

市議 中辻荒吉

原子爆の反対は今や世界の声としてほうほうとして起つて居る事で、今更声を大にして云うまでもないが、あの悲惨なる広島、長崎の爆げきの跡をラジオに新聞に又映画ニュース等によつて知らされた時、これもしこの原子爆を今後における人類の斗争に使用せんか、そのよつて来たる所の惨状は独り広島、長崎のみに限らず科学の発達を予想するなれば人類の破滅も如何と考えられるものであります。今や科学の発達にもない原子爆の実験も止むを得ざる場合もあるが、そのよつて来たる結果を見た今日、これの実験にて人体の障害に天候の変化に又水産食糧に及ぼすへい害は実に人類の生存に危機を思わせる状態と感ぜられるのでありましてかく考えてまいりまして、今後原子爆の使用は元よりその実験は何等人類に益なきものと思われ、絶対反対するものであります。

国際緊張緩和のために

悉く声をあげて原子爆禁止へ

原子爆禁止促進協議会代表・逗子平和懇談会副会長

菊地ミツ

原子爆は人類を滅亡させる兵器です。アメリカは今度戦争が始まれば、原子爆を投下すると云つています。原子爆を所有している事が国際間の緊張を強めています。国際間の緊張を緩和させるために各国は原子爆禁止の協定を結ぶべきです。政府はそのためとりもつべきです。私は世界のすべての良心を呼び起すために、平和を守るために、老骨の一生を捧げます。

天理教湘南・逗子分教会長

神尾新次

世界全人類の生か死かの世紀の大問題を起した本家米国の人道主義を重んずる良心ある者も、西欧諸国でさえ原子爆禁止運動を叫びつゝあると、朝日新聞等でも報じられているのに、広い世界の中、日本民族のみ幾度か原子爆の有難くない洗礼を受けて居りながら、何つの日に立つ？

吾民族こそ他国に率先して真に人類平和と福祉の運動に総けつきすべきだと思ふ。東海道五十三次のひざ栗毛の時代ではない。超科学兵器の発明も、人間のした事であり、破壊は一瞬であり、造るに長い日月を要する事を思えば私は叫びたい。各派の組織団体も宗派も

一切一丸となつて人類の生存に幸あることにつぎる運動に参加して
 もらうことです。双方敢斗も、本来の目的たる人間社会の福祉の運
 動にあつめたいものです。

苺と放射能

尾崎孝子

昨日の雨に放射能ありし放送を聞きつつ庭の苺摘みをし

摘みし苺水に注ぎて放射能の雨は此処にも降りしと思ふ

広島に娘を死なせたる母の嘆き聞きつつ辛し梅雨曇る窓

広島に爆死せし娘を嘆く母放射能の雨を憎みて止まず

放射能に汚染されたる黒潮の流るる海に魚族らはあり

原水爆禁止決議をせしあとも余燼のごとき怒りは消えず

放射能に刺戟されある昨日今日国土死滅の噂も伝はる

映画「ひろしま」について

監督 関川秀雄

映画「ひろしま」は長田新編「原爆の子」より日教組が製作したもので、製作の意図は原爆の惨害を多くの人に正しく知らしめ「全世界の人々の意志と力を平和を守る運動に結果し、自滅に直面した人類の将来に光明を得たい」ということでした。

「原爆の子」に集録された多くの子供達の作文が数年前の四、五才の頃の印象を鮮明に記しているのに私たちは驚かされるのですが、実はそれほどまで「ピカドン」の被害がムゴタラシイものだったのです。この映画は、この恐ろしい原爆禍を克明に写し出しています。生きとし生けるものが、瞬時にして死滅するその地獄絵がくりひろげられます。何処の誰といった主人公がいるわけではありません。この映画では原爆が主人公です。映画は七年後に被災者が原子病に倒れるところから始まり、七年前の昭和二十年八月六日の広島にさかのぼります。そして又七年後の現在へ。何んでもなかつた人が突然血をはいて倒れる。頭の毛もぬげ落ちる。手当のほどこしようなのない業病＝原子病。この恐怖は人ごとならず今や私たち全部をとらえています。そして現実の被爆者は「ひろしま」でさえ生ぬる

いとついでいます。この地獄の苦しみが水爆で私たちの上に運ばれたら、一体私たちはどうすればよいのでしょうか。

『講演と映画の夕』

とき 八月一日(土) 午後七時

ところ 逗子小学校講堂

講師 林 克也(民主主義科学者協会々員)

映画 ひろしま・原爆ニュース

(広田重道氏蔵)

〔注〕「逗子原水爆禁止促進協議会ニュースNo.1」(一九五四年八月六日)より抜粋。

三五 横須賀平和の会便り第三号

〔表紙〕一九五四年八月十日

横須賀平和の会 便り No.3

仮事務局

市内大滝町一ノ二十一 ⊕魚市場内

電話 二二五〇

役員会開催のお知らせ

一 第三回常任幹事会

日時 八月十七日(火) 午後二時

会場 ⊕魚市場二階役員室

議事

1 会友制度の件

2 市内各地で懇談会、講演会開催の件

3 経済問題懇話会の件

4 第四回世話人会及び懇話会開催の件

5 其の他の件

二 第四回世話人会兼懇話会

日時 八月二十三日(月) 午後七時

会場 勤労会館講堂

会費 一人百円(但し傍聴者歓迎)

議事 第四項を除き第三回幹事会と同様の件

懇話会 去る七月三〇日の結成大会に欠席された添田良信氏が陳

謝を兼ねて来会下さるので、お話をきくと共に質問及び意見の交換をする。

横須賀平和の会結成大会盛大に開かる

一九五四年七月三〇日午後六時十五分より市民会館において、広田重道氏司会の下に、約三百名の参会者にて、終始和やかな空気で開催された。当日の出席世話人三〇名であった。

最初に、広田重道氏の「開会のことば」があつたが、特に平和の会が結成大会を待たずに実際活動として原水爆反対署名運動その他を行いつゝあることゝ、それが政党や宗教のちがいをのりこえて広い市民層のなかで手を握り合つていることが強調された。

次いで事務局長高畑荀氏の経過報告があり、横須賀魚市場における原水爆被害実情報告大会から本日の横須賀平和の会結成に至るまでの経緯を詳細に説明して、本会の成立の事情を余すところなく明かにした。

続いて来賓諸氏の御挨拶をうけることゝなつたが、時間の関係から県会議員秋山徳雄氏と市議員高橋喜八郎氏の両氏に来賓代表の挨拶を戴くことゝなつた。秋山県議は本会の結成を心から祝福され、その発展を希望されたが、高橋市議は過日の横須賀市会に於ける原水爆実験及使用反対決議の経緯を説明され、平和の会が市会の決議の線に沿うている以上全市民的当然の運動である点を強調された。終つて横須賀地区労働組合協議会を代表して全駐労横須賀支部長長

島秀吉氏が登壇し、メツセージを朗読されたが、更に衆議院議員山田長司氏(栃木県社会党支部会長)及び、琉球問題懇話会のメツセージ並に本会参加団体のメツセージが事務局長高畑荀氏により披露され、関東平和懇談会、神奈川地評、横須賀民線、その他からの祝電が読み上げられて、万雷の拍手をあげた。

次に横須賀図書館長竹田平氏から本会の基本方針の発表と説明があり、特に戦争なき世界の招来を力説されたが、その方針は満場の賛成の拍手を以て確認された。

これに引続いて、世話人代表として魚の会々長岩田義一氏及び市立病院レントゲン科主任林信雄先生のそれぞれ本会の成立をよろこび将来の発展を誓い市民各員の御支持を希望する旨の挨拶があつた。最後に、横須賀文化協会々長三輪美聡氏が立つて「閉会のことば」として、参会者に感謝し、平和の会発展のためにますゝ協力することを希望する旨の発言があり、午後七時二〇分結成大会の幕を閉じて記念講演会にうつつた。

続いて記念講演会に移る。講演の概略

婦人と平和

神近市子氏

○ 戦争の罪悪

親と子、夫と妻さゝやかに寄りそう営みを一朝にして破壊し去る戦

第2章 社会運動

争、無に過ぎない一大消費、人間否定、殺戮、それに関連して、前戦争時の女性の献身と再び流れる事のないようにと祈らずにいられない女性の涙について。

○ 原水爆実験と製造禁止

これからの水爆実験の継続により戦争はしてゐないが、戦争と同じ危機にさらされている事の無気味さ、腹立たしき、世界で始めてその被害を受けた日本人が世界に向つて原水爆の実験はもとより、製造の禁止を強く提唱しその運動を推進しなければならない。それにして日本の外相の国民に対する愛情はおろか、国籍さへうたがはしい言明、親の心子知らずは昔の話で、今は政府が親、国民が子とすれば、子の心親知らずの甚しい見本である。

○ 再軍備の愚

警備隊の主力を北海道に大変な力こぶを入れてゐるが、勿論仮想敵国はソビエトを指す事は明らかで、しかも警備隊の最高の地位に立つ人は敗戦を指導した旧軍人であり、仮に攻められた時は五日は持ちこたへられても後はお先真暗という自信のなさ、然しながらそれに費す軍備費の龐大な事、軍備を持つ事によつて嫌でも二つの勢力の一方の側と見られ相手側を刺戟するに過ぎない不利、女性は本能で再軍備に深い懐疑の目をむけている事。

○ 軍備を持つ事による損失

軍備を持つ事によつて起つてくる種々の面白くない現象について軍備費を社会保障に充分流せば結核療養者の坐り込みも、子を道すれの自殺もなくなり、世の中が幾分でも明るくなる。

○ 平和への婦人の切なる悲願

何と云つても子を産み、子を育てるのが女性の務めであるから、再び息子を夫を戦いに奪い取られまいと必死に平和であることを切望しない女性は只の一人もいないといふ事を結びに力強くお話は終る。

平和運動について

淡徳三郎氏

平和と云う言葉は百年、二百年否何百年、何千年前から叫ばれている。人間が棲息して以来惨禍のあとには必ず平和という声が溢れているのだ。特に第一次世界戦争が終結した当座は各国に於て熱心に称えられたがそれは単なる題目にしか過ぎず、やがてまた目を掩うような焦熱地獄を現出した。第二次大戦が予想もしないうちに突如として勃発してしまつた。御承知のように独逸・伊太利・日本と枢軸国が敗け、そして平常にもどつたものゝ、平和とは言い得去(一)二三年後の世界情勢は冷い戦争と呼ばれ、何時いかなる場所でもまたや熱い戦争に入る事も凶り難い不安な暗雲に包まれてしまつた。第三

次大戦に入つたなら、それこそ人類の破滅だと平和の雄叫びが各地に強く言挙げされたけれどもそれは、——無力にも等しかつたがそれがようやく力強いものになつた。進軍しだしたのは五年前巴里とブランク(?)に於て第一回世界平和大集會が開催されてからである。それは何故か、この大集會以来単なる叫びでなくなつたからだ。平和を愛する人々が国籍の如何を問はず皆んなで腕を組みながらその運動に寄与しているからである。凡らく人間として平和を愛さぬものはなからう。ところがその平和を純粹に考えない所に問題があり、人類の不幸がある。こゝにお集りの方等にしても保守派の人もあるうし、革新派の人もあるう。自由、改進黨を支持する人、社会党、共產黨に共鳴する人、中立の人等、思想も自ら別れるので平和の観点も違つてくる。併し乍ら共通の点はある筈だ。この共通の場所を探究してゆかなくてはならない。

われわれは生命の尊さと幸福を希求する。この生命と幸福の場所では右の人も左の人も異論のある筈がない。皆同一の考えであろう。こゝに一致点を見出さなくてはならない。各階層、各階級の人等が真剣に話し合うことが必要で平和の為にどうすればよいか、どう云う方向に進むべきかは、自らその道は分明してくる。国際問題にしても、主権の尊重と不干渉と、平和共存の二原則のもとに話し合う

ならば、戦争に訴へる事なく永久の平和は絶対に樹てられる事を確信してこの運動に皆さんと益々強く広く深く深く手を取り合つて進もうではないか。

本市で広島原爆追悼大会ひらかる

八月六日、広島に最初の原爆の投下された日を記念して、本市上町地区において、広島原爆追悼大会世話人会の主催で、横須賀平和の会の後援の下に、映画と講演の夕べが開かれた。

当夜は約三〇〇名の人々が、定刻の午後七時に続々と会場である興産会青物市場広場に集まり、日朝協会の萬俊福氏の司会のもとに開會され、最初に橋本住職によつて原爆ギセイ者に対する一分間の黙禱が厳粛に行われた。

次いで神奈川県経理協同組合理事長安藤馬吉氏の世話人代表の挨拶があり、それに引続いて各地からのメッセージが朗読、披露されてから講演に移つた。講師として横須賀平和の会の広田重道氏がマイクの前に立ち、大要つぎの通りことばをのべた。

「八月六日は日本人が最初に原爆の洗礼をうけた日として意義がある。三月一日に日本人はまたく、水爆の世界最初のギセイ者となつたが、次のもつと強力な原子兵器の最初のギセイ者が日本人であつ

第2章 社会運動

ては大変だ。日本人こそが原水爆の禁止を叫びうる唯一の民族であり、同時にそれが日本人の義務である。広島の新ゲイ者を葬る唯一の道は、世界から原水爆をなくすことである」

次いで映画『原爆の子』その他が公開され、盛会裡に午後十一時すぎ散会した。因に右の世話人の主なる人々は、安藤馬吉、加藤善哉、(市会議員) 稲川寅治郎、小林祐助、増田市蔵、飯島義彦、長井知一、金甲柱、その他の人々であった。

各地の運動

A 平和のための神奈川県青年婦人大集会開かる

八月六日午後五時から前夜祭として第一から第三まで各分科に分れて、「平和を守るにはどうしたらよいか」「生活を守るにはどうしたらよいか」「教育、文化、スポーツについて」の題目の下に討論会を行い、八月七日午前十時から横浜国大工学部講堂で大集会全体集會を行った。尚、同日午後七時から工学部学生ホールで懇親会を行った。

B 海の平和祭には全関東から約三万人が集會

鎌倉市中央海岸で県青年婦人連盟主催の下に開かれた八月八日の海の平和祭には、関東の各地から約三万人の人々が集まり、さながら

海のメーデーの感があつたが、終始和やかに行はれて、文字どほりの海の平和祭であつた。

C 世界平和集會日本準備会の世話人総会開かる。参議院第一会議室にて、八月七日午前十一時から、全国各地の世話人約一〇〇名の出席を得て開催された世界平和集會日本準備会は、同事務局長淡徳三郎氏司会の下に、尾形昭二、西園寺公一、秋元正の三氏を議長団に選び、次のとおり進行された。

経過報告(淡徳三郎氏)

世界平和集會えの日本代表のうち次の十二名が帰国し、以下続々と帰国の途についている。平塚常次郎、池田正之輔、石黒清、鈴木力、田尻一雄、佐竹五三九、添田良信、国井秀作、須藤五郎、堂森芳夫、大野幸一、柳田謙十郎、これらの人々を迎えるに当り、次のことを基本態度としたい。

- 1 その労をねぎらうこと
- 2 平和の確信をかかめること
- 3 平和への国民的統一を強めること
- 4 ストックホルム大会の意義を明かにすること
- 5 日本に於ける今後の平和運動の在り方に対して示唆を与える事次いで池田正之輔氏(日自党)が出席して、帰朝の挨拶をされた

が、世界会議における通訳団の必要を力説した。終つて休憩に入り午後は最初に原彪氏（衆議院議員副議長）の挨拶があり、ついで須藤五郎（共産党）の帰国挨拶があつたが、特に次の引用が印象にのこつた。それはフランス代表の「十二時間戦うより十二ヶ月話し合う方が望ましい」とのことばであつた。

次いで柳田謙十郎氏と佐竹五三九氏（全金屬労組）のそれ／＼帰朝挨拶があつたが、柳田氏の「ソ連人は戦勝を一つも誇らずに、戦禍を嘆き且つ呪い、日本代表の手をとつて、どうか世界平和のために努力してくれと口々に云う」このことは考えさせられる問題だと思つた。議題としてアジア平和会議の問題が上程されたが、世界代表団が一応帰国したのちに細部はきめるべきであるとのこと、たゞ次の点が確認された。

- 1 代表を各県別に出すことを止める
- 2 全国的視野から出す
- 3 通訳陣を強化する

次いで常任世話人会の確立が決定され、午後五時半終了した。尚夜六時から小掠^{オツク}広康氏のアジア安全保障についての講演があり、終つて岩村三千夫氏を囲む座談会が行われた。

D 原水爆禁止署名運動全国協議会結成さる

八月八日午前十一時より東京、国鉄労働会館七階ホールにて、原水爆禁止署名運動全国協議会の世話人総会が、安井郁氏（法大教授、杉並区公民館長）の司会の下に開催され、全国各地より参集した約二百名の世話人の出席を得て開かれた。

議長団には、遠藤三郎（元陸軍中将）、高良とみ（参議院議員）、片山哲、有田八郎、その他の人々が選ばれ、趣意書の審議をもつて議事が進められた。

趣意書については「自ら直接に署名運動を行うものではなく、その署名の総数を全国的に集計するものである」「かゝる運動のセンターとなる全国協議会は一切の党派的、個人的エゴイズムに依つて汚されない、清らかな組織でなければならない」この二点が確認されて、原案どうり可決した。

次いで要綱の審議に入り、目的の第三項の「署名運動によつて示された日本国民の要望を全世界（各国の政府、議会、国民ならびに国際機関、国際会議等）に訴え、原水爆禁止に向つて協力を求める」について、横須賀平和の会の意見に基き、満場一致にて次のとおり訂正した。

「……日本国民の要望を日本政府及世界各国政府、議会、国民ならびに国際機関、国際会議に訴え……」